

よしの道徳だより

令和 6年 7月16日 第1号 発行「『ことば』の心」部

本校では道徳の授業を「『ことば』の心」育成の柱として考えています。心が豊かになるためには、道徳の学びが自分たちの生き方に結びつくことが大切です。そのために各学級では年に35時間、道徳の授業を行っています。

- A 主として自分自身に関わること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命、自然、崇高なものとの関わりに関すること

昨年度までもしばしばお知らせしておりますように、道徳では、左表に示す4つのことを学習します。Aにおいては自分のことを考えます。Bにおいては友達との関わりを、Cにおいては友達に加えてもっと大勢の周囲との関わりについて考えます。Dにおいては環境や命について考えます。AからDにはそれぞれさらに細分化された内容項目があります。

花が増え続けている芳野のアカシアの木

森に囲まれている芳野小学校には、たくさんの樹木があります。その一つがアカシアの木です。しかし、このアカシアは校舎内にあります。中央階段を上がってすぐの廊下に生えています。4年生の子どもたちが

花を増やしています。

本物のアカシアの花は黄色です。4年生の子どもたちが増やしている花も黄色です。でも、芳野の花には文字がびっしりと書いてあります。内容は、友達や担任の先生へのメッセージです。

下表にて、メッセージの一部を紹介します。

- ・〇〇さんが、てつぼうでいっしょにあそんでくれました。
- ・〇〇さんが、算数がんばっていました。
- ・〇〇さんは、係でみんなをまとめたり、せつめいするときもみんなのいけんをたくさん聞いたりしていました。

お気づきのように、メッセージは友達の優しさや思いやりなどです。4年生の子どもたちは、このようなメッセージを互いに伝え合っているのです。

日常生活で見逃されがちなよさに気付く素晴らしさ

アカシアの木のメッセージからは、①互いのよさを認め合う心の成長を感じ取ることができます。さらに、その段階に至るための②日常生活で見逃されがちな互いのよさに気付き合う資質の成長も感じられます。特に、後者についての成長は素晴らしいですね。支持的風土が形成されるとともに、一人一人の子どもたちに自尊感情が育ちます。

令和6年度の学校教育目標「やる気と行動」では、子どもたちに自信を育ててほしいという願いを込めています。やる気をもって行動することともに、このような気付き愛や認めあいも自尊感情につながります。

アカシアの木を育てることで、子どもたちは水から豊かな感性を育てているのです。